



仇潜畫贊輯

5
1376



浪華午晴齋

俳諧書畫賛輯

豊津蒲丈選



序

街にちあはし〜行生蒲丈
をこも形お好もあはし
積りて世小ねまうし
とゆふ中世のし路をいん
ちん凡あはしあはし

利
1.376
巻

抄のなかに傳ふ集録
の類は多し其の
法所の法は其の
法に依りて其の
宗の宗は其の
しるすに依りて其の

宗の宗は其の
法に依りて其の
法所の法は其の
法に依りて其の
宗の宗は其の
法に依りて其の
法所の法は其の
法に依りて其の



一枝之危

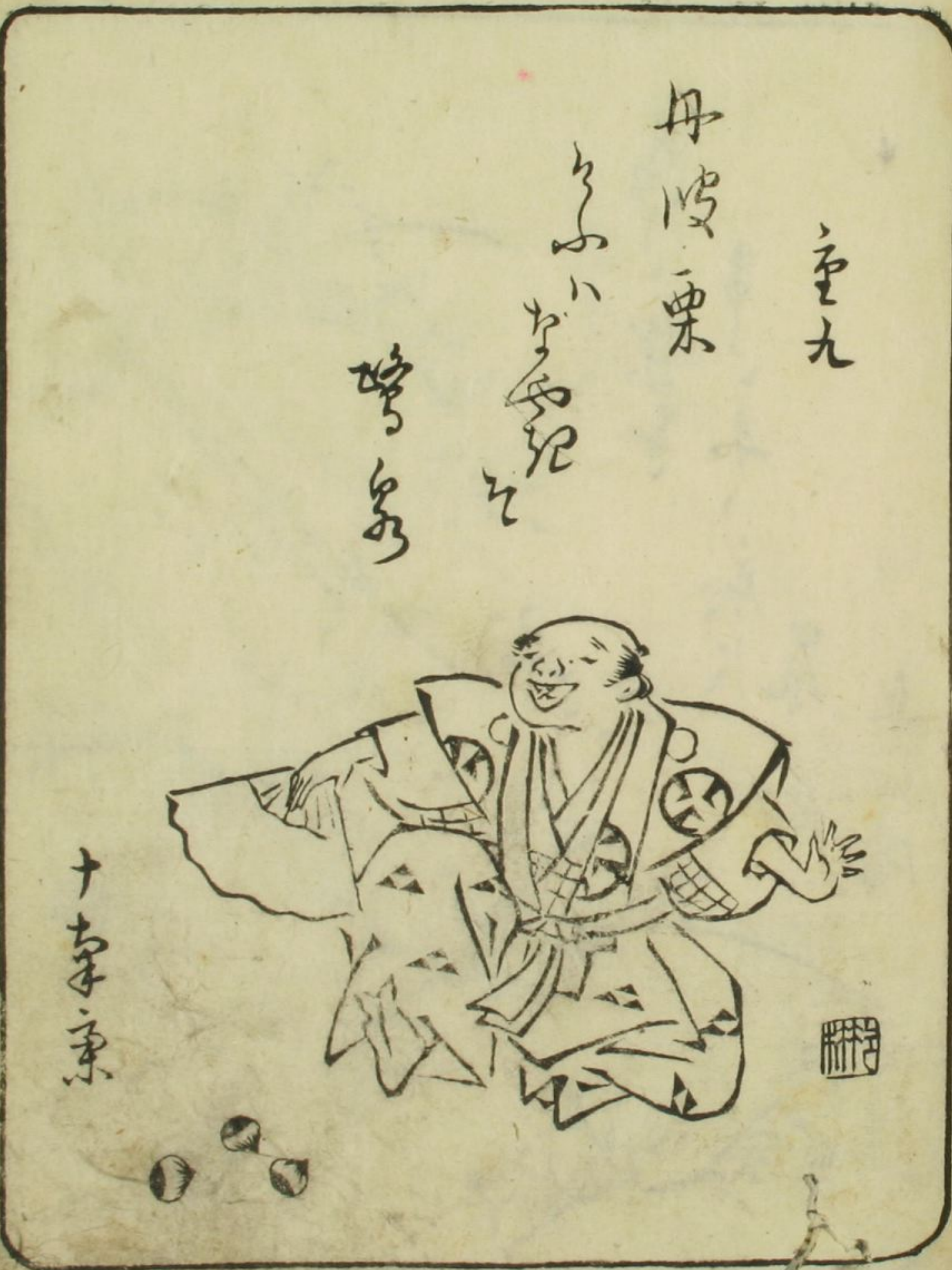
花
あ
も
か

か

七十四箱 招 應 誌

能 詔 乃
と 詔 乃

子 電 人 百





山印を賣取

店ハ明

とを

柿の花

清得舎

富天



清一茶を

まゝ一本、度尺

嵐ヶ那

東江橋

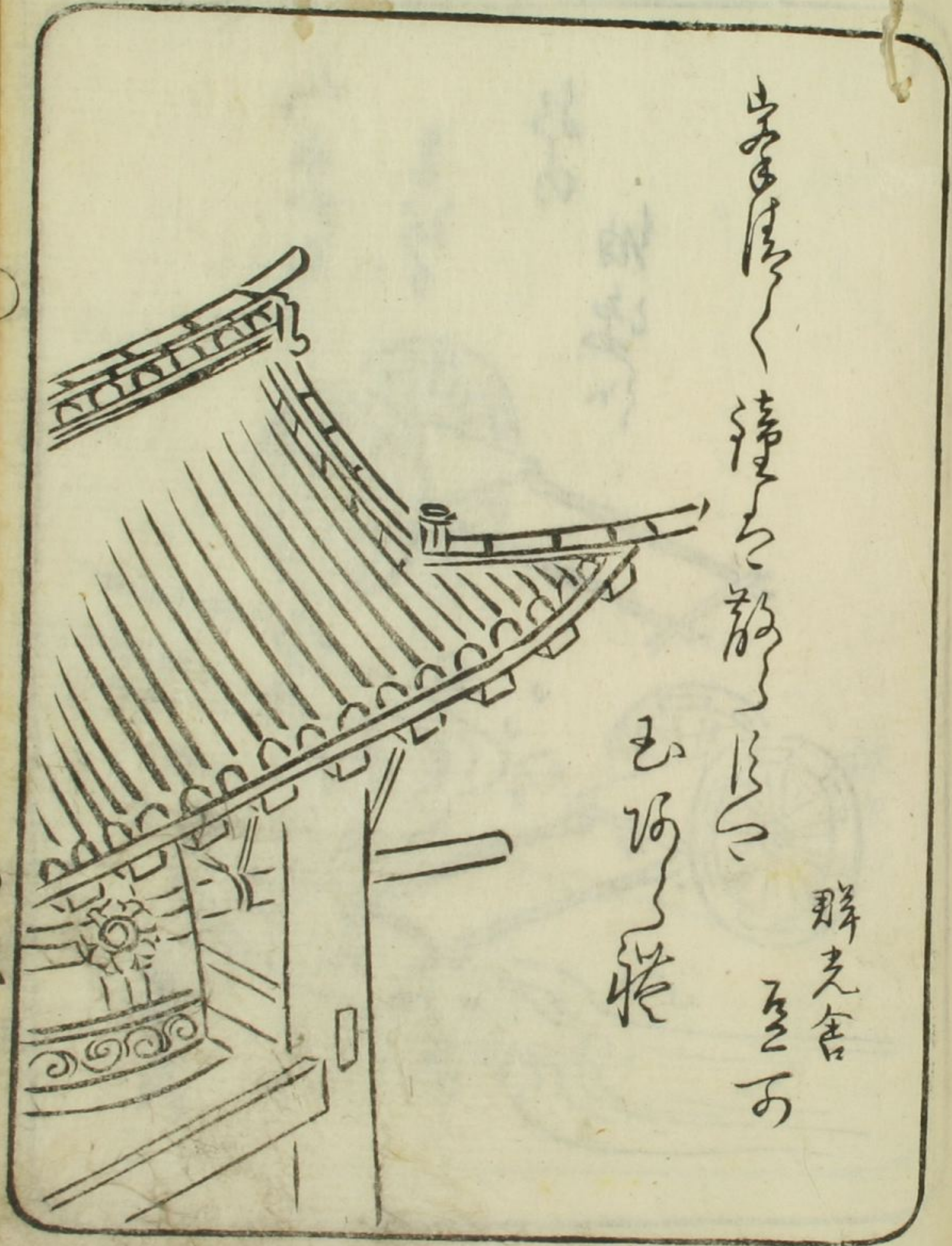


⑥ 草









玉河の橋

玉河の橋

群光舎
玉河



高花橋
魚橋

高花橋
魚橋

高花橋
魚橋

高花橋
魚橋



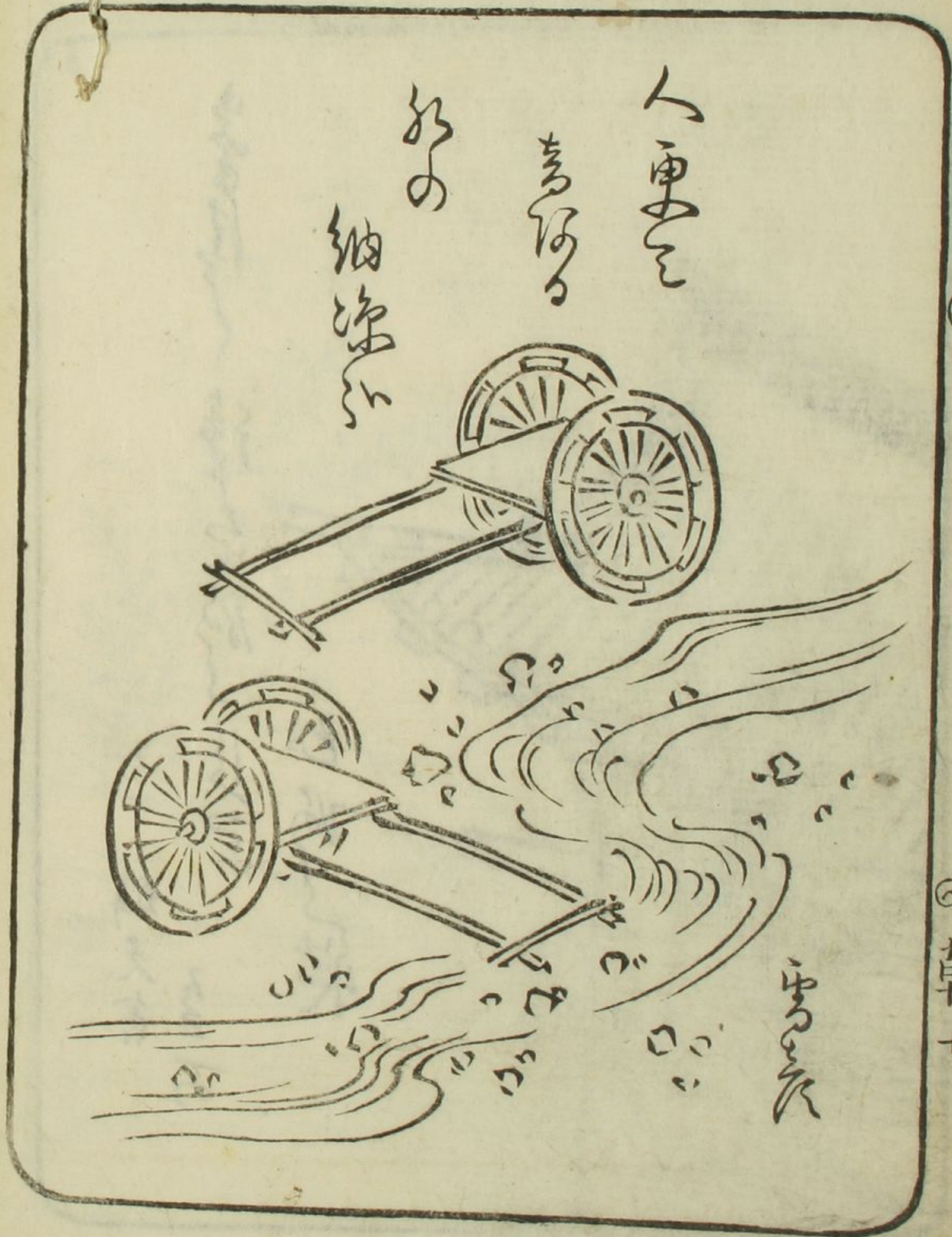
皆他人

ちりねさくら

やうの哉

振衣館

嘯月



人車

まほろ

おの

細路

朝七

中



まご梅の室を覗く如
手柄弘

曉雀



苦熱

常盤木

目心友

にしき

是子形

素文

66 草



時雨

望

河らし

ふ

卯入

山の
安

素中



初雪也

友なり

と

う
う
終
終

迂高

朝
朝
朝



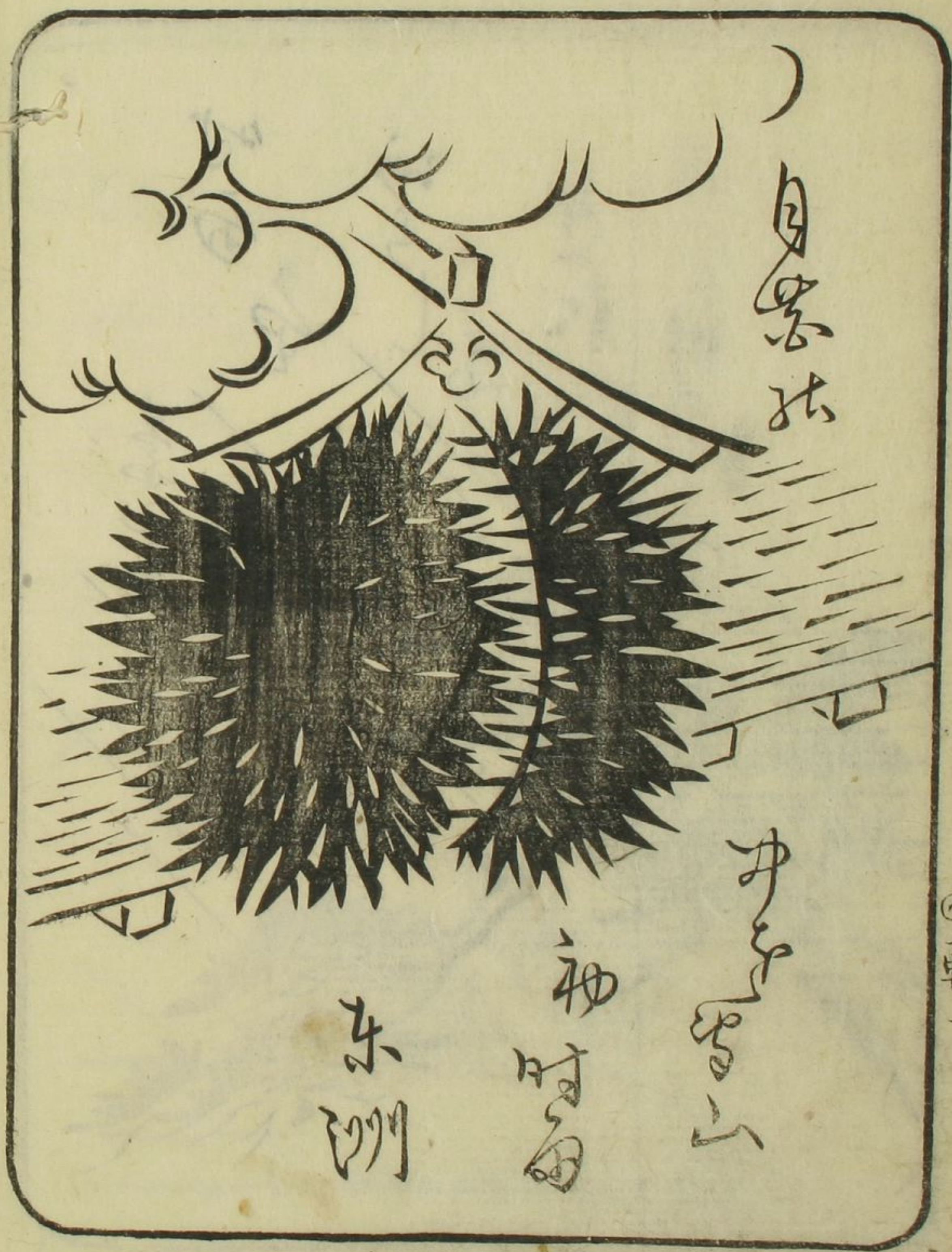
風中の糸

縹色

かきみき

こころ

平安
翔鳥



月影

かきみき

初時

東洲

卓



羽
寫也

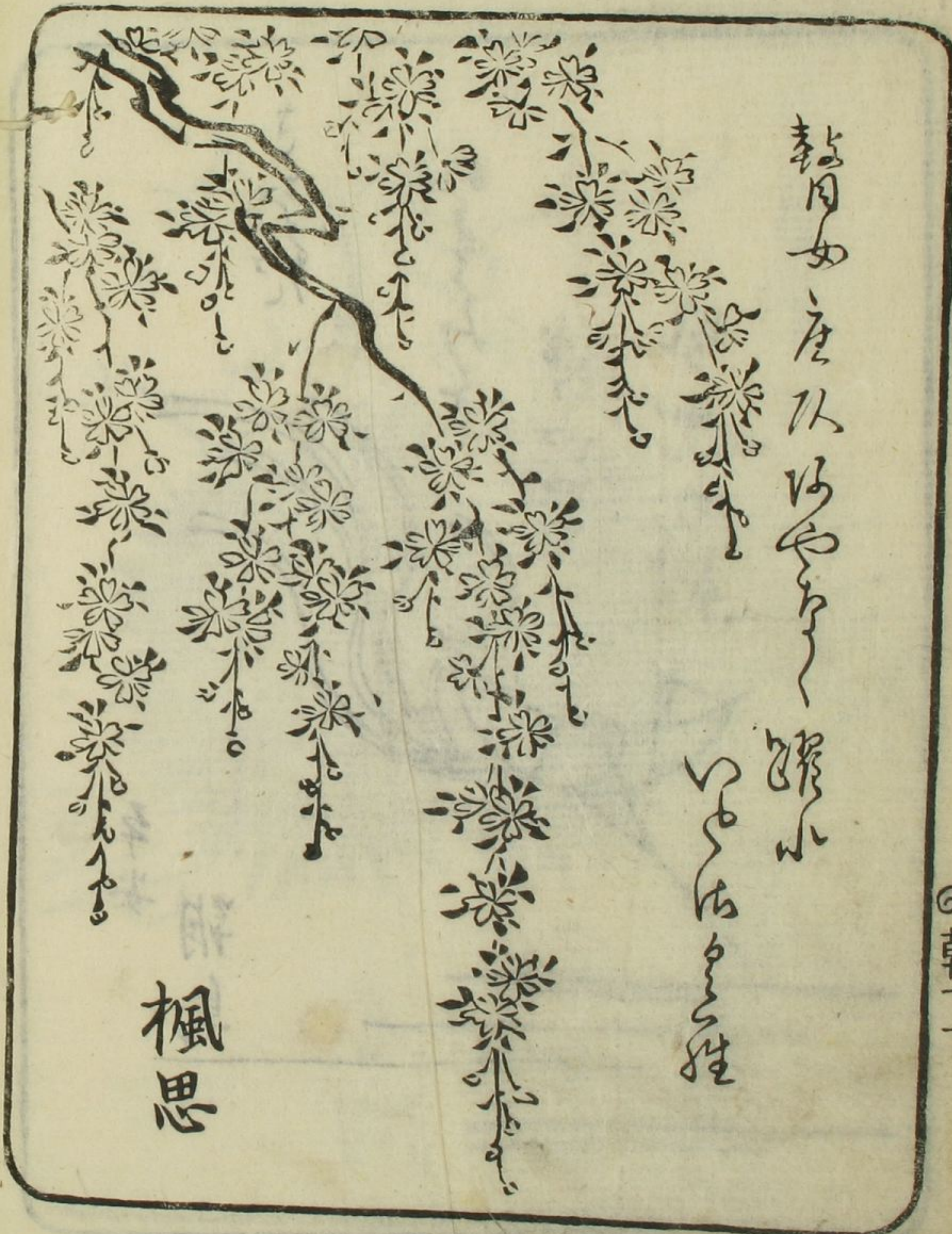
深射拔

黃矣

法

地

九



黏月如唐从以也

水

楓
思

卓



李夫人也志の跡免の

水仙花

朱六



九十三

神楽

雲中索

春羅

松子

鶉

多柳



九十三



蓮花
外 面 似 佛 志 欲

金鵝改
馬來

四九



了 了 歸 來
人 の 心 也
は 子 写

漢外

韓



大鵬の

翅や

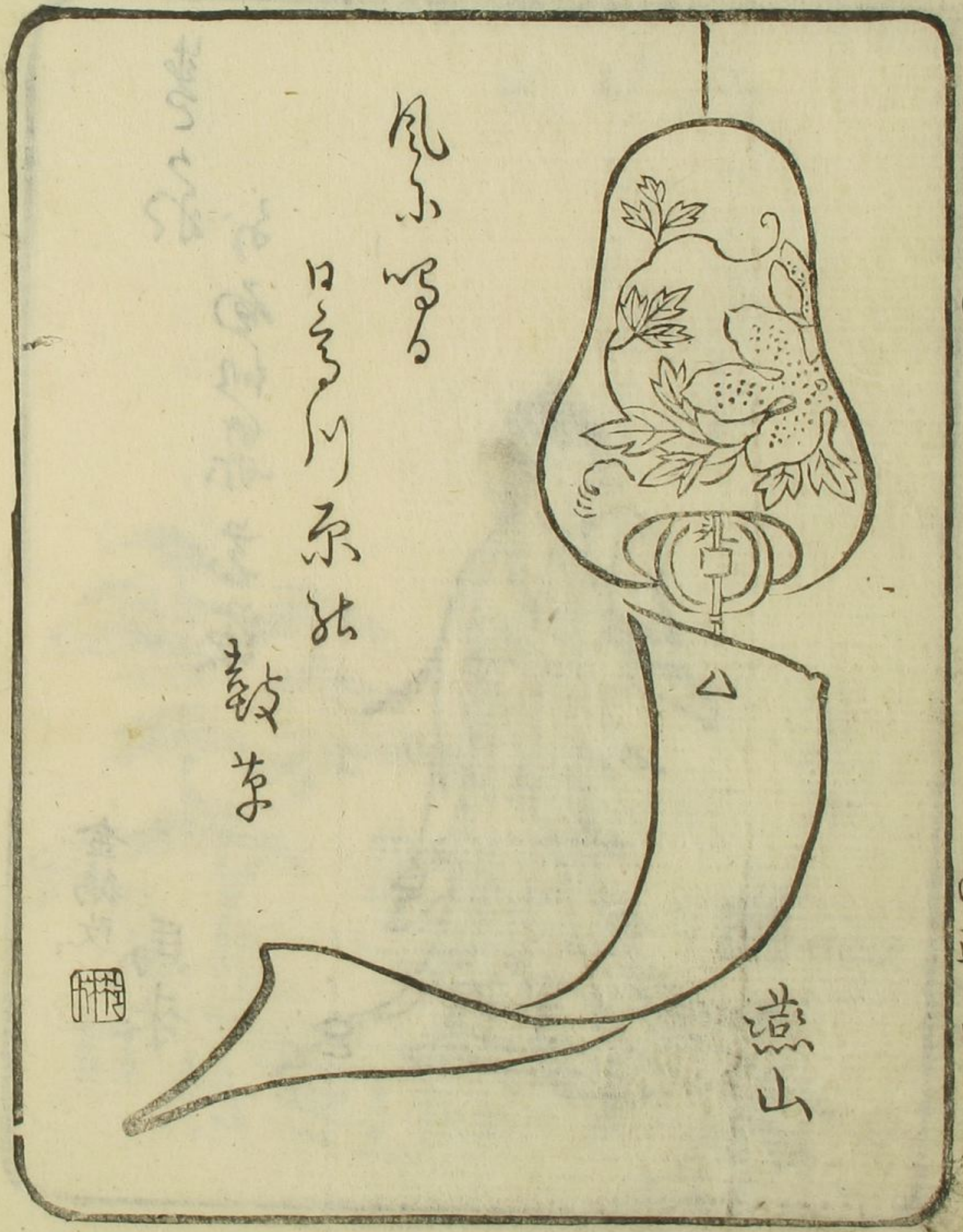
泊瀬

志岩

北

美峰

〇九二



風小鳴る

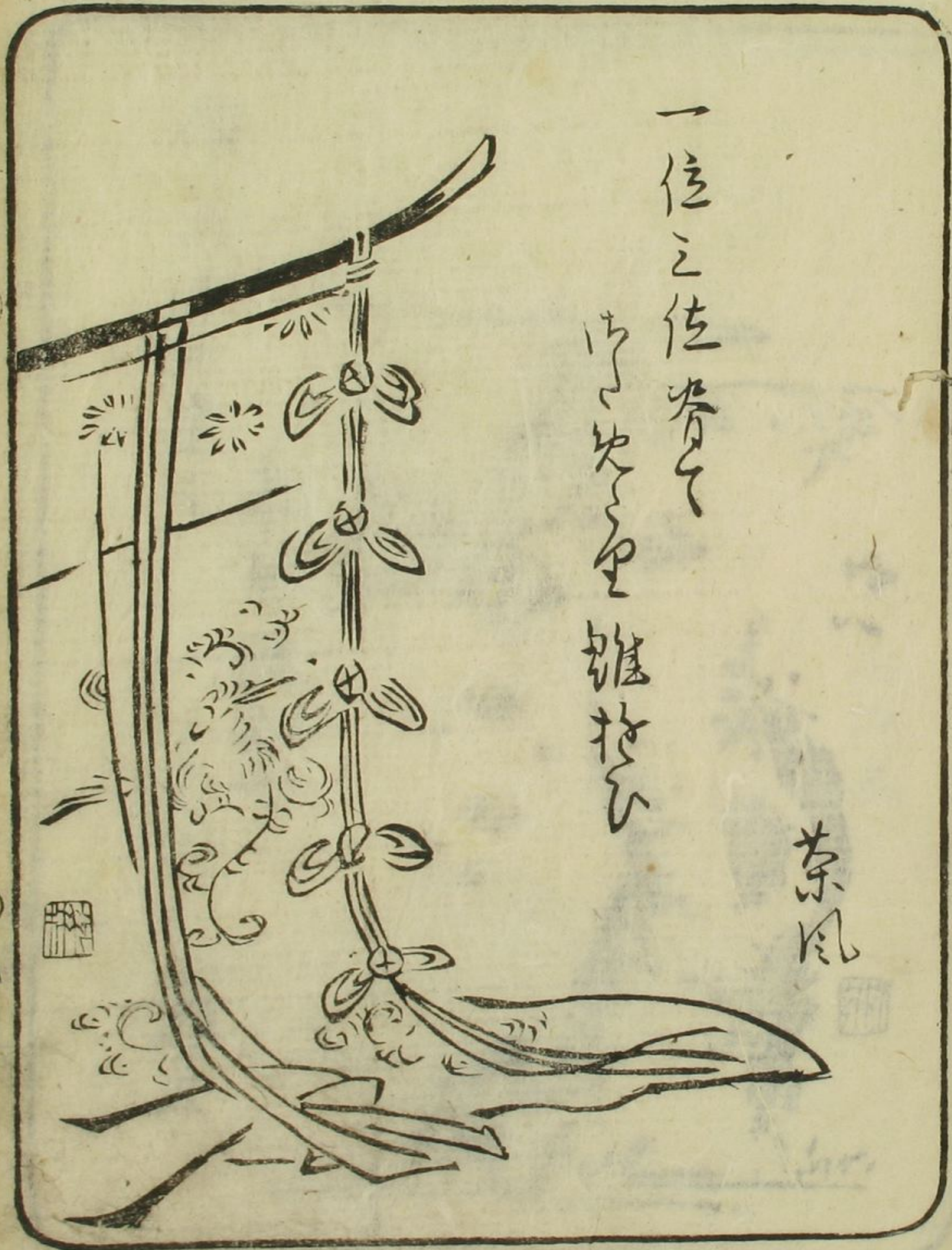
口々川系出

鼓草

漁山

印

〇九二



一位之位者
 此の杖を
 誰か

茶風



揚坊

なりや

名も
 む

寺小阿

市隠

6 韓



真柳画

何事か目也

雨をしのぐ

花



散花已ら意小

春の朽木

逸文



修禪や

舟の

二階

出舟の岡

如葉

梅障画



木の葉散る

ふゆの人の

こころ

十月百北山、

梅障

画

古本七

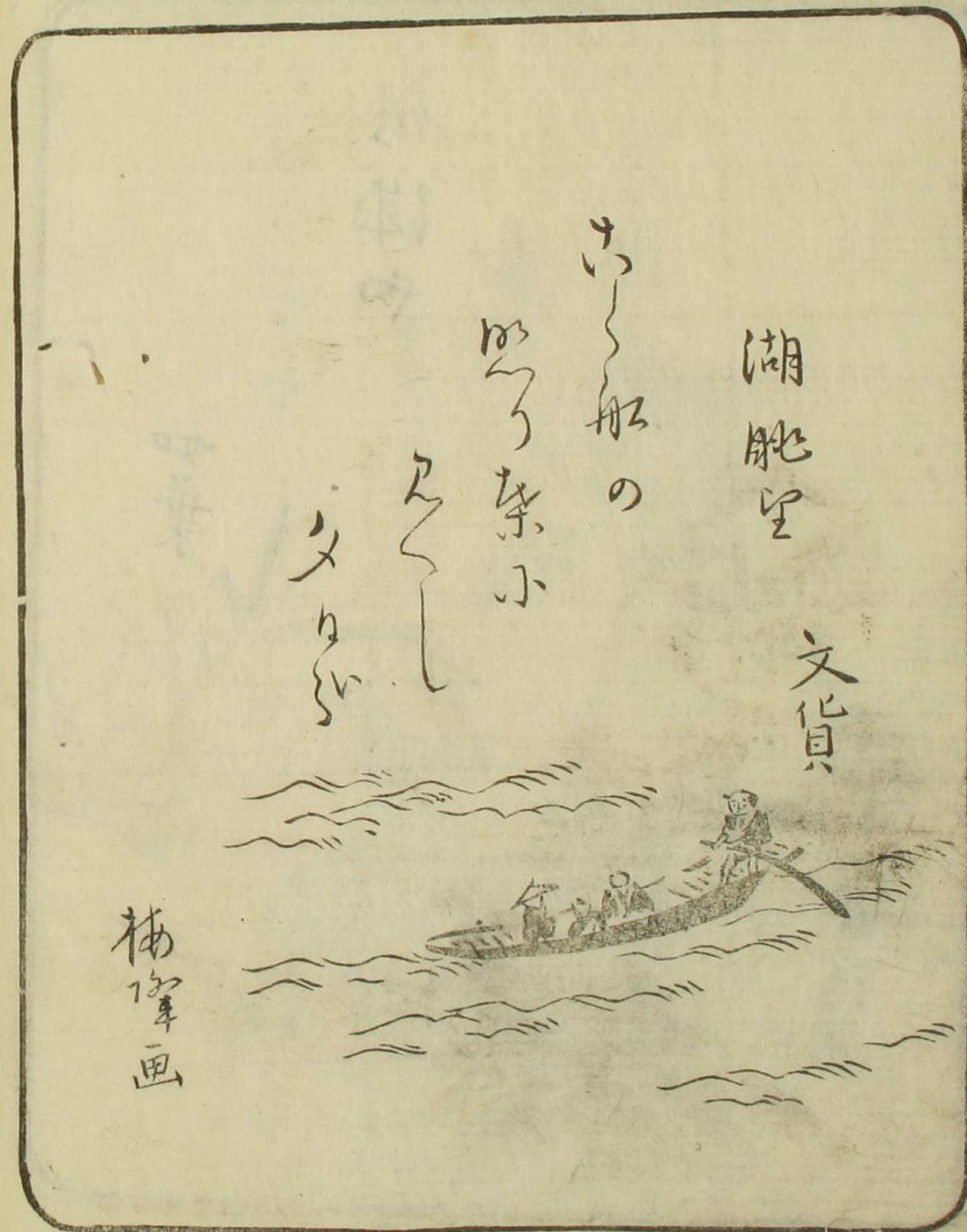


浪竹くや
 かゆう竹と花
 ほろりせん

亀笑



〇
 九
 九



湖船望

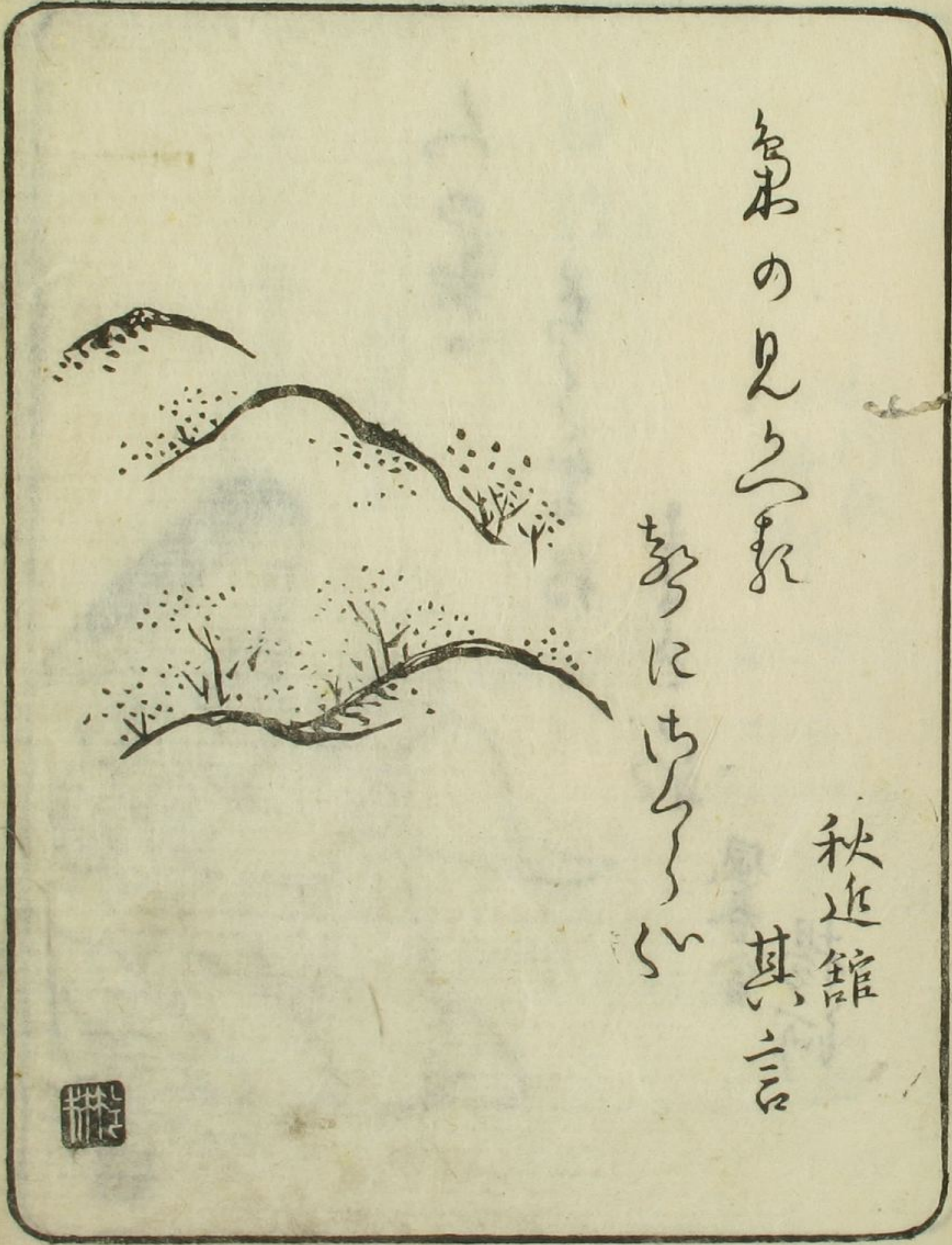
文貨

舟の
 照る葉小
 夕り

梅仙画

〇
 十
 一
 八





名水の見ゆれば

勢にちかづく

秋近館

其言



南都之

部

韓二十



初夜を

後也

舟の

ちり

うけ

之舟

舟



人の世

まじり

まじり

風春舎

揚河



草三十一

見ゆるまの

きんぎょ

えび

妻の隣



素中

梅人



朝三十二

歌水

手不抄

古き秋の

落葉



石志

菊人





楊子

楊子



粟を討

杉と山魁望

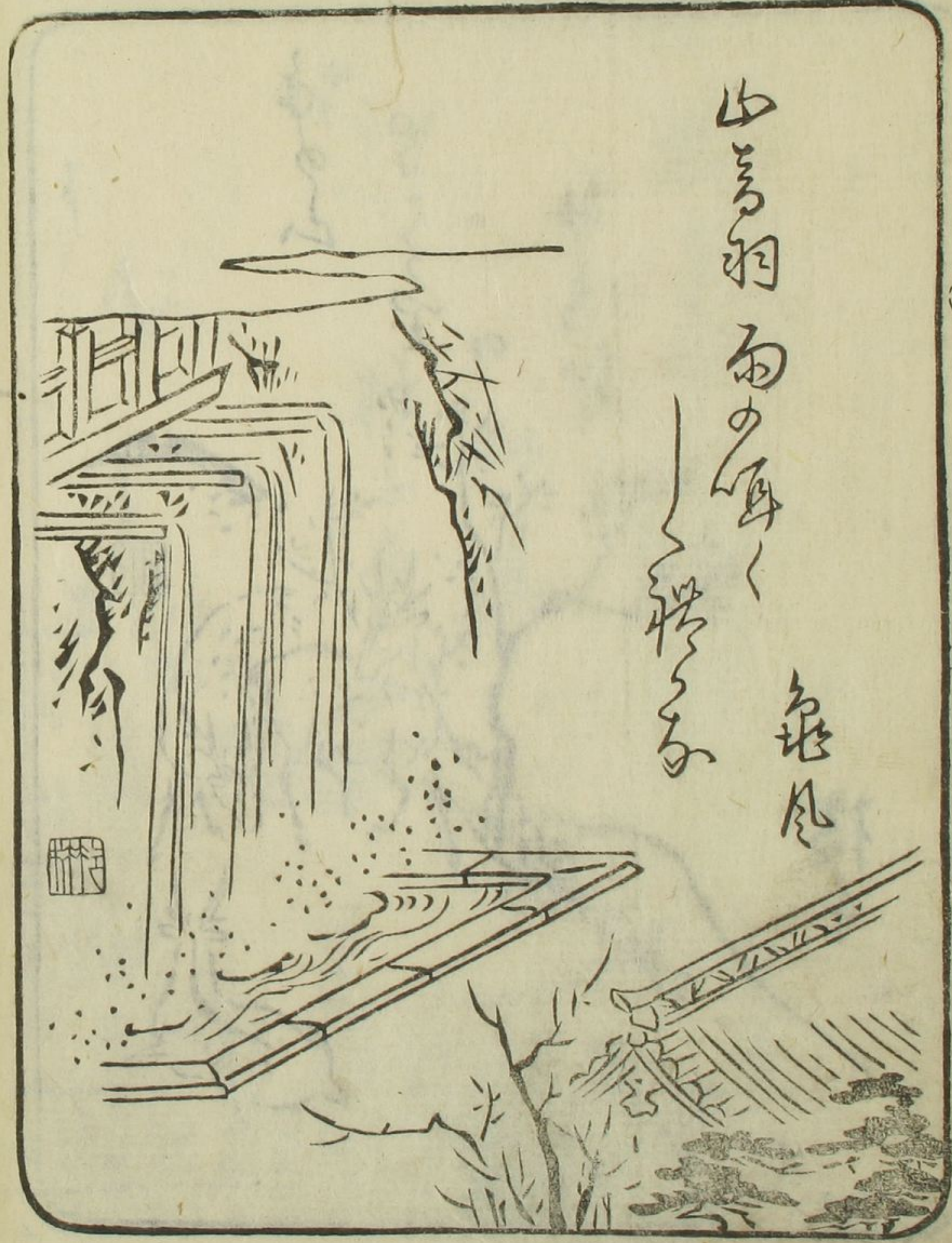
目々

却
の不格

如塚

紫風

〇元正五

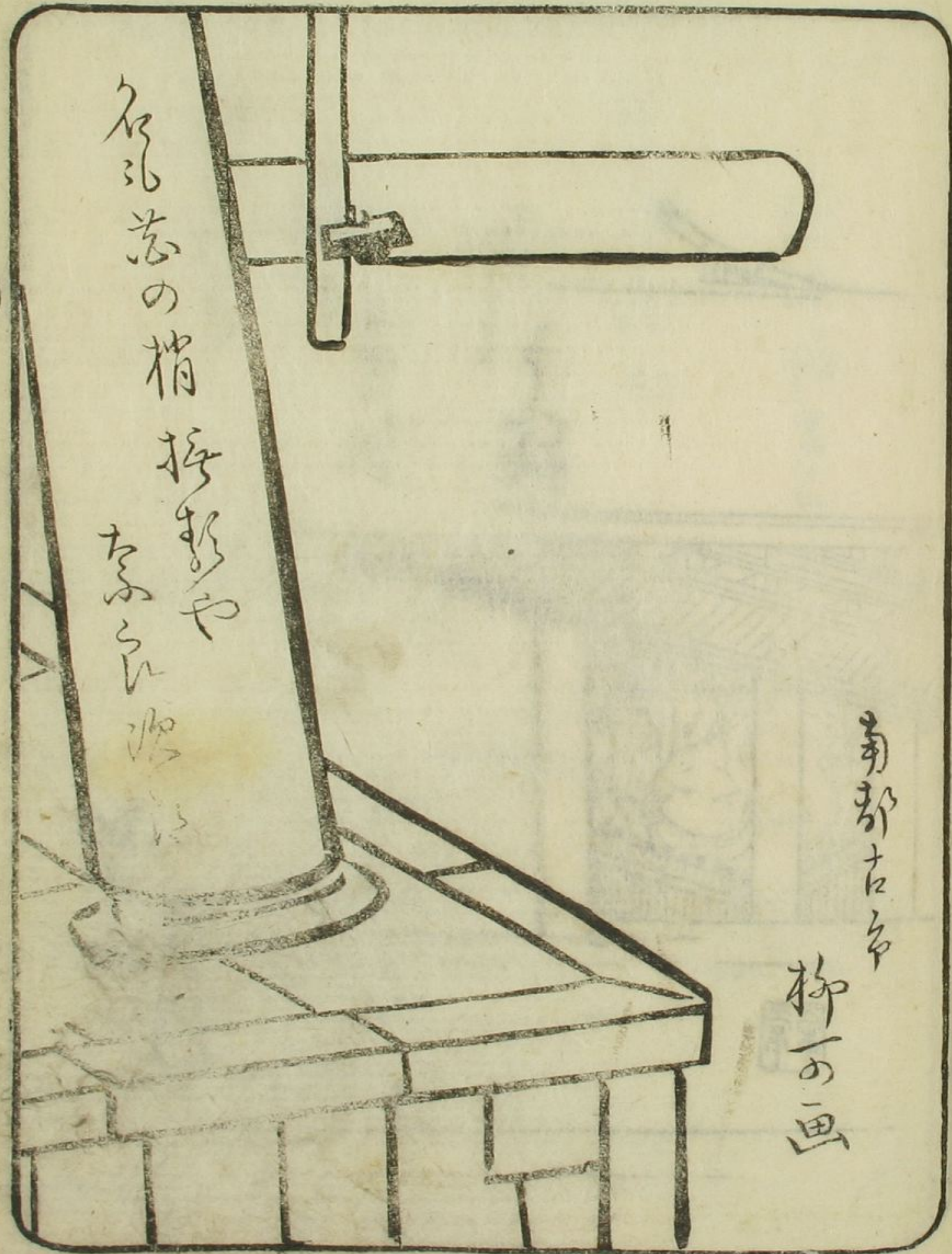


山名羽雨の海く

し格の家

名地風

〇〇〇 幹二五



名は志の梢
揺るや

たふらぬ

南都古寺
柳一画



悟るハ

常の

志をり

梅様

左由

の草



赴洛陽舟中

碧山寒色

初不到洛社

夏柳

蕙谷



呼々々

新々

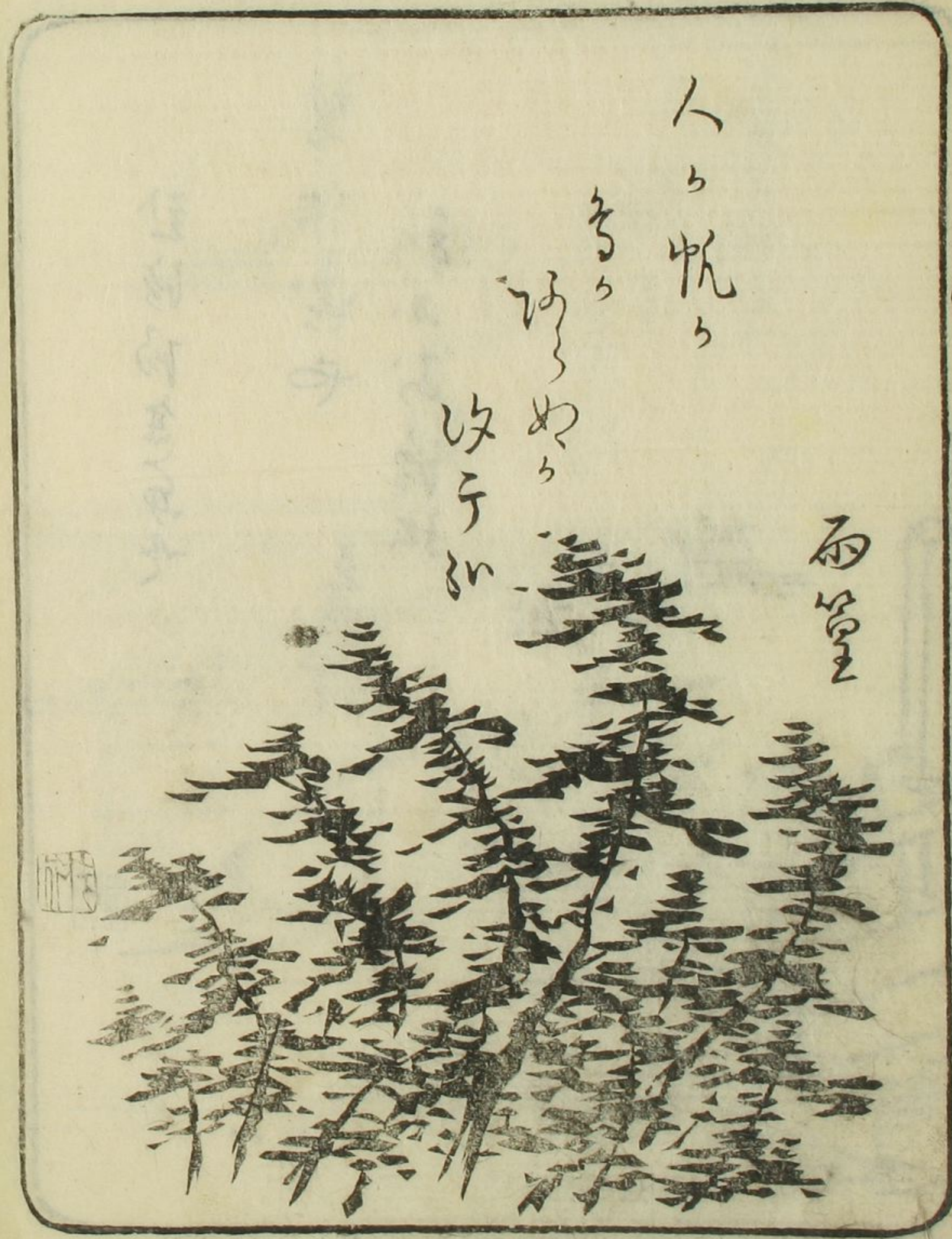
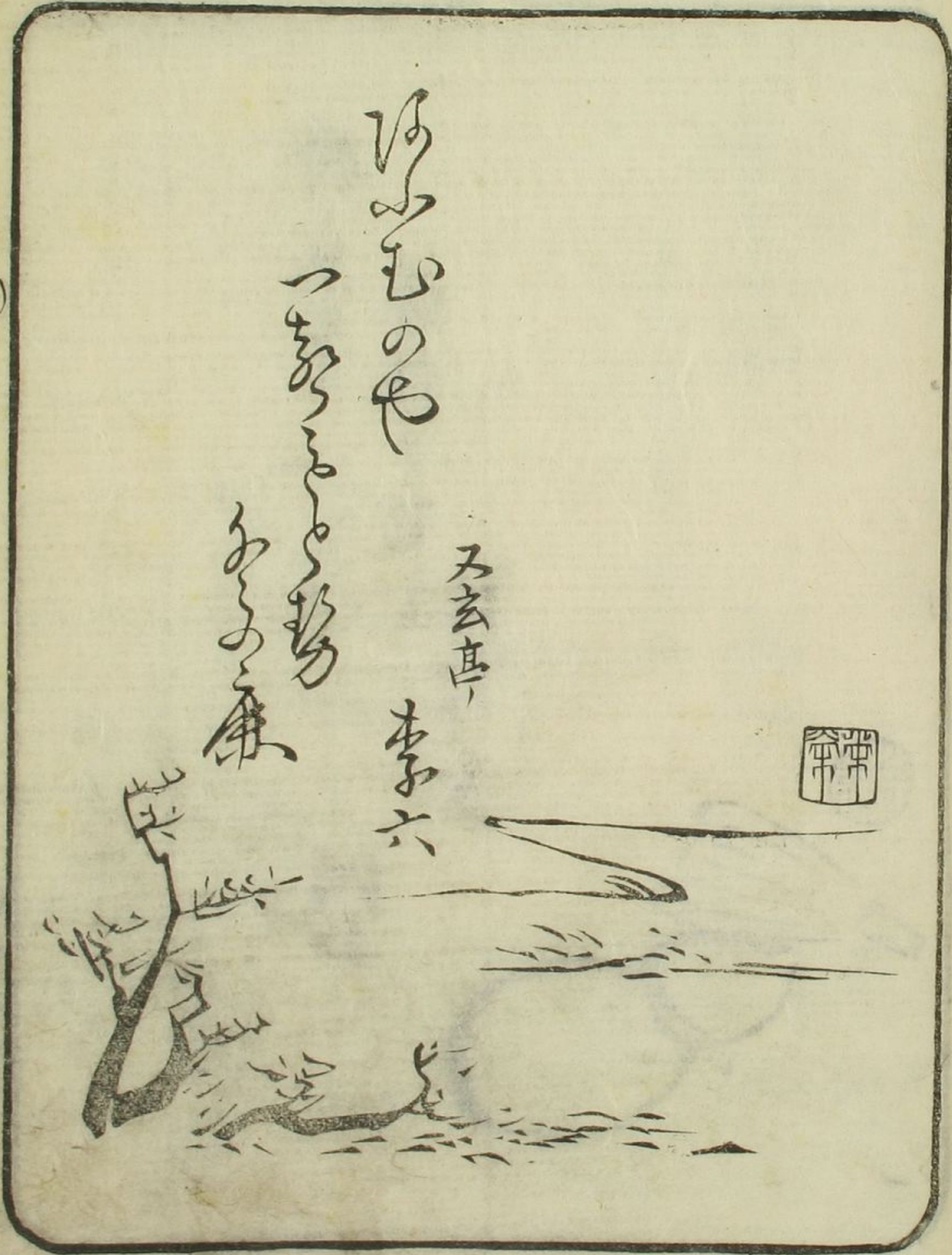
早秋

心
自
然

细雨夜

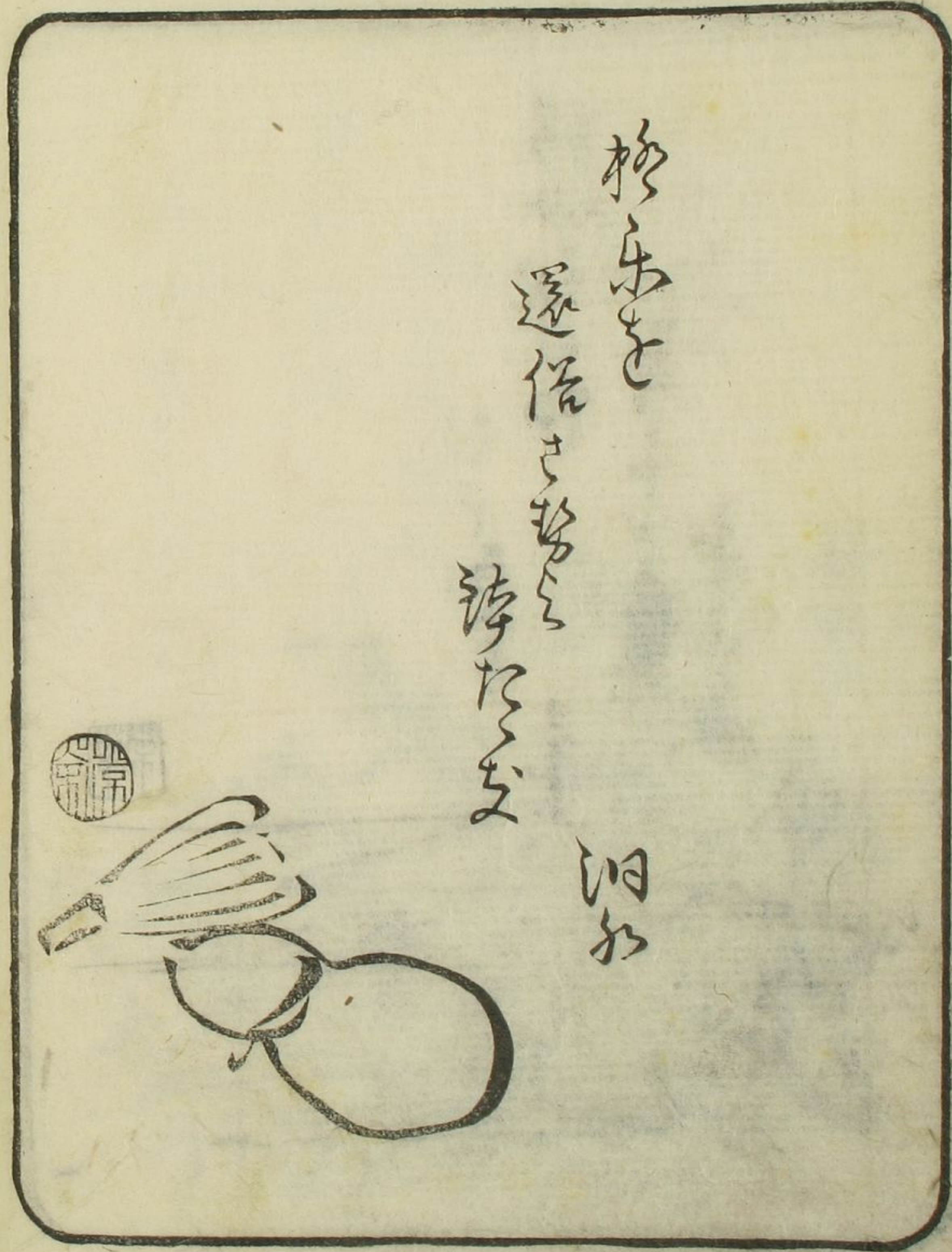
其溪





卷之六

卷之六





けしや花の
 吳女少老を
 けし
 跡と月

雲江亭
 芳樹畫

三十一



吹如日張

時雨の

羽之北

指し

清泉舎
 柳逸

三十一



秋

日中

鏡の

空

夕

曉
月閣
梅貫



皆教

松小力

高

挹翠齋

玉知



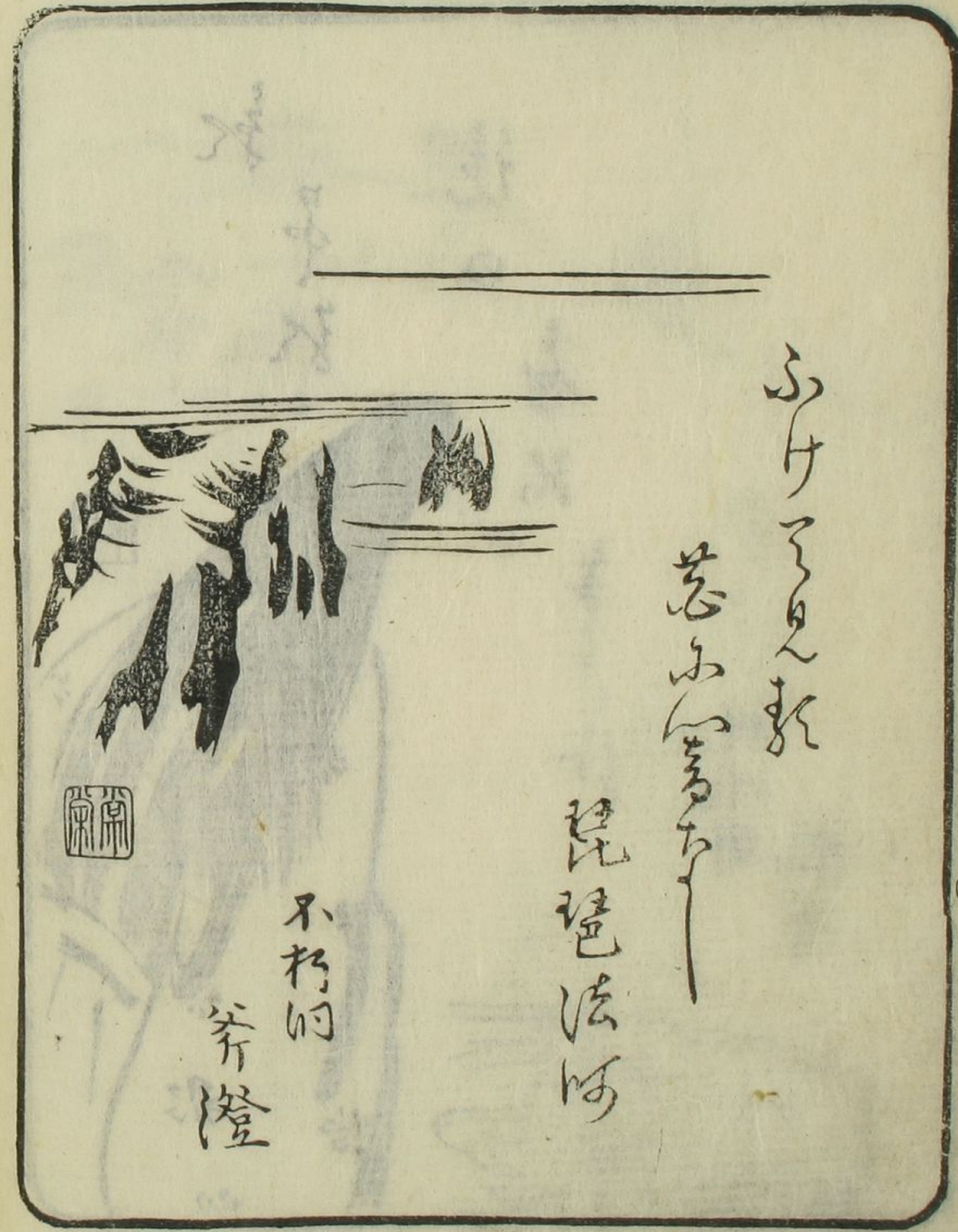


其言

秋近館

其言

其言



其言

其言

其言

其言

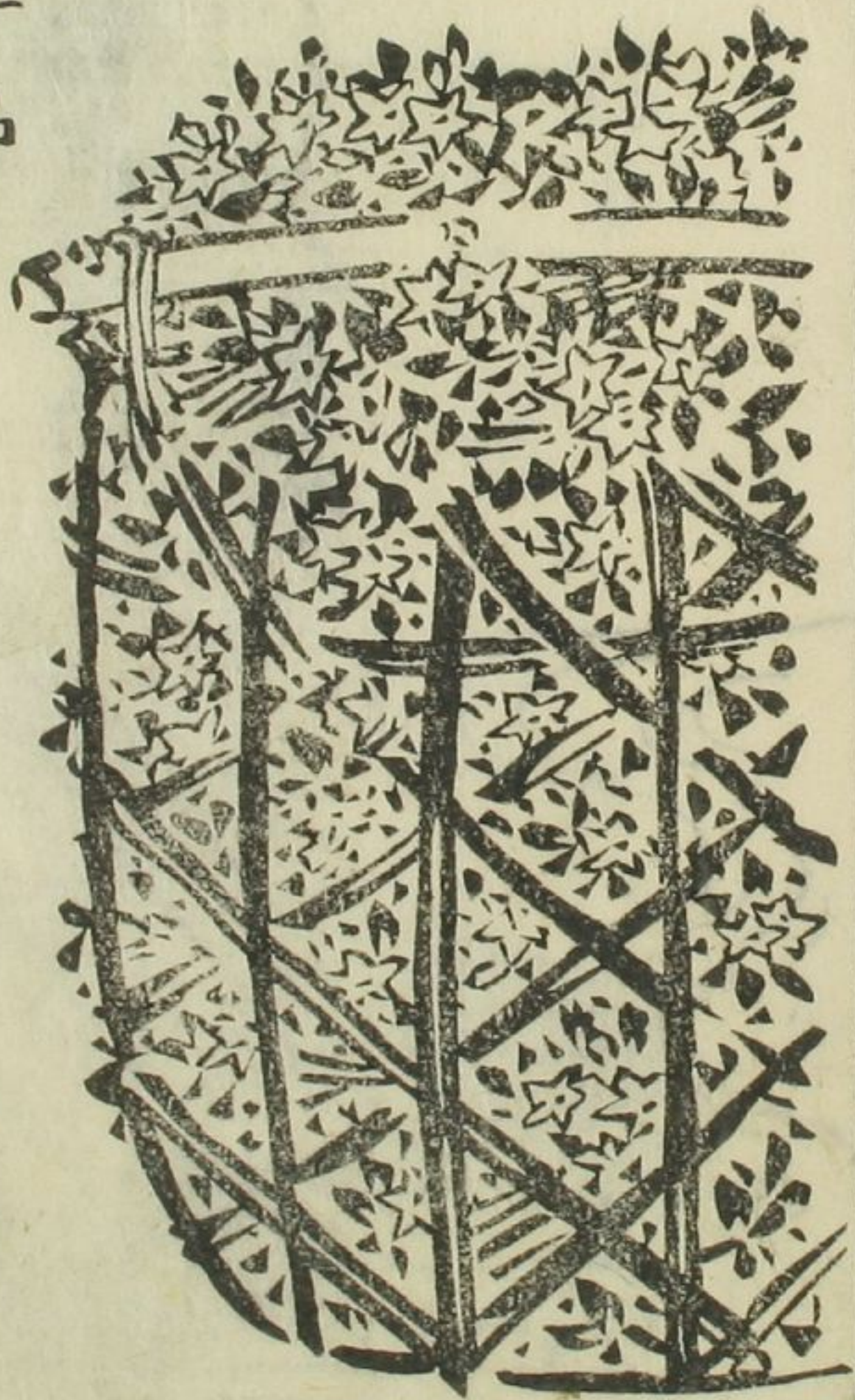
其言



其言

志の歌天小
指さんや月あな

灌佛



函雨

魚

乾三

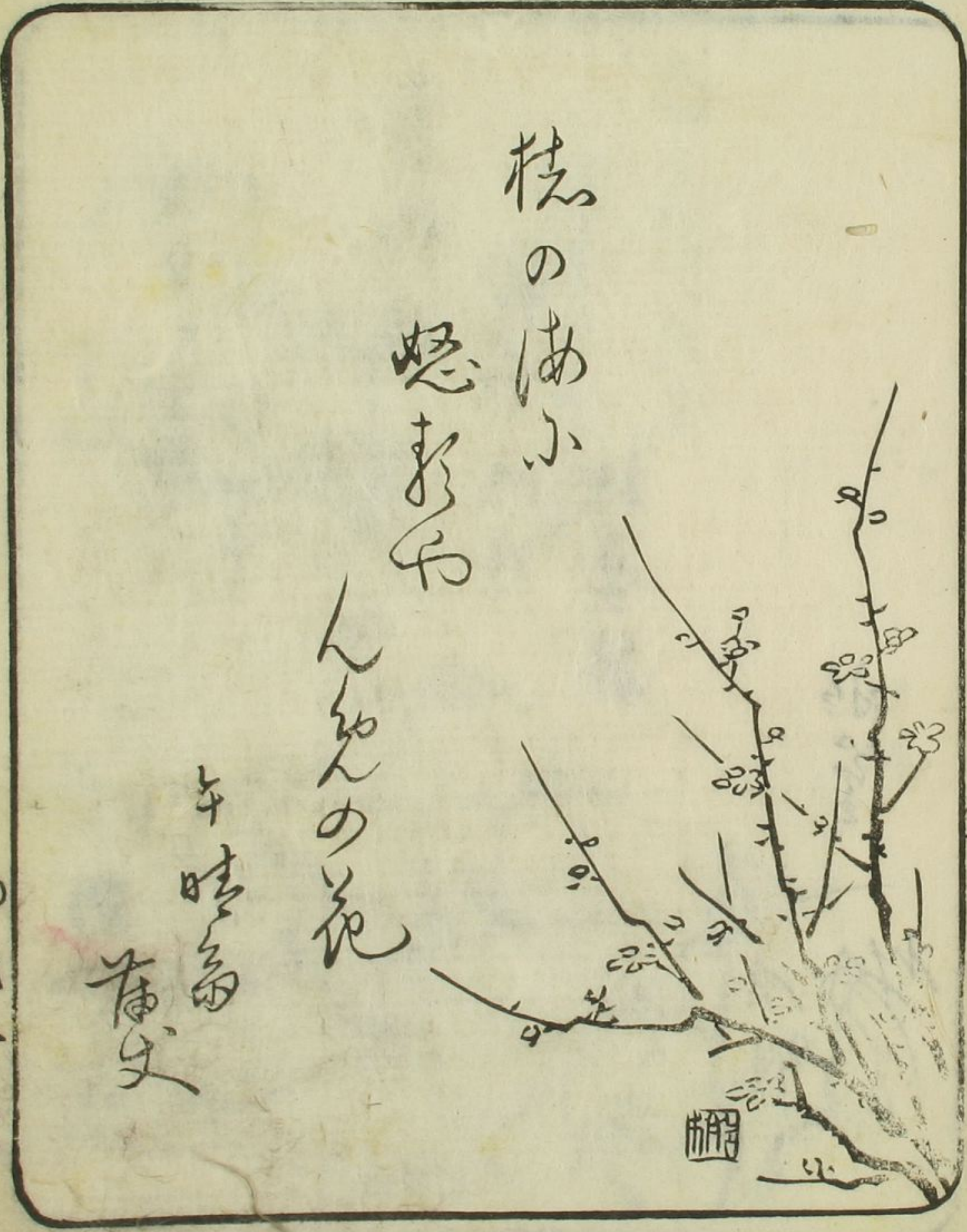
南都之部終

友松り
ま里なう知や
夜の兼



愉々意
ふふふ

乾三

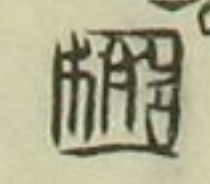


松の満小

怒おろ

くしの花

春晴
有文



松風の

静してはる

ゆるり

酒仙





雨
 之
 乃
 水
 下
 燒
 之
 乃
 堂
 之
 水

伊
 丹
 水
 秀

九
 三
 七



坂
 之
 乃
 水
 柳
 下
 浦
 之
 乃
 水

喜
 柳
 水

精
 之
 波
 水

神
 樂
 舞

水
 堂

九
 三
 七



高
 山
 の
 景
 目
 録
 知
 り

名
 所
 貝
 塚
 松
 鉈
 可
 圭
 画

光
 三
 八



名
 所
 小
 浜
 の
 景

飯
 次
 の
 別
 荘

名
 の
 船

伊
 丹
 雲
 郷

草
 三
 七



游
 虎の
 山
 記



有花也

瑞明花山

山様

江坂小
流小

呂雄

回轉三才





河内水辺の
 中押分敷
 一茶亭

福原
 戈谷

乾
 四
 十一



大正隠鏡
 風小傳

何々歌

福原
 巻古

朝
 四
 十一



男を記

まゝにさし

柳之影

之馬



五月の旬也

筆花

ほろり

ぬるり

道

福原僧

李曉

古亭四十二



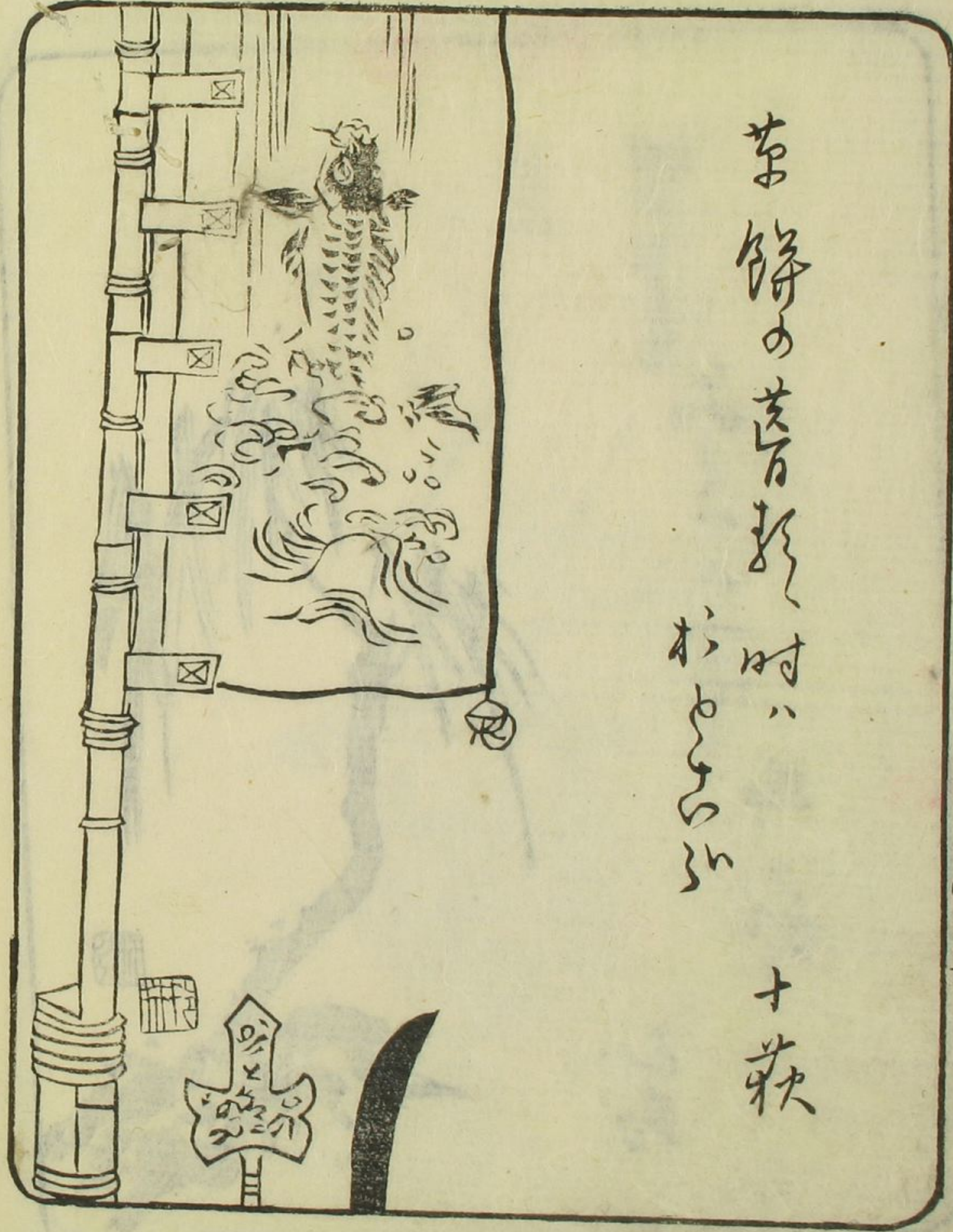
さきづつハ

まきの野まきの

帆うけ船

一來

九四

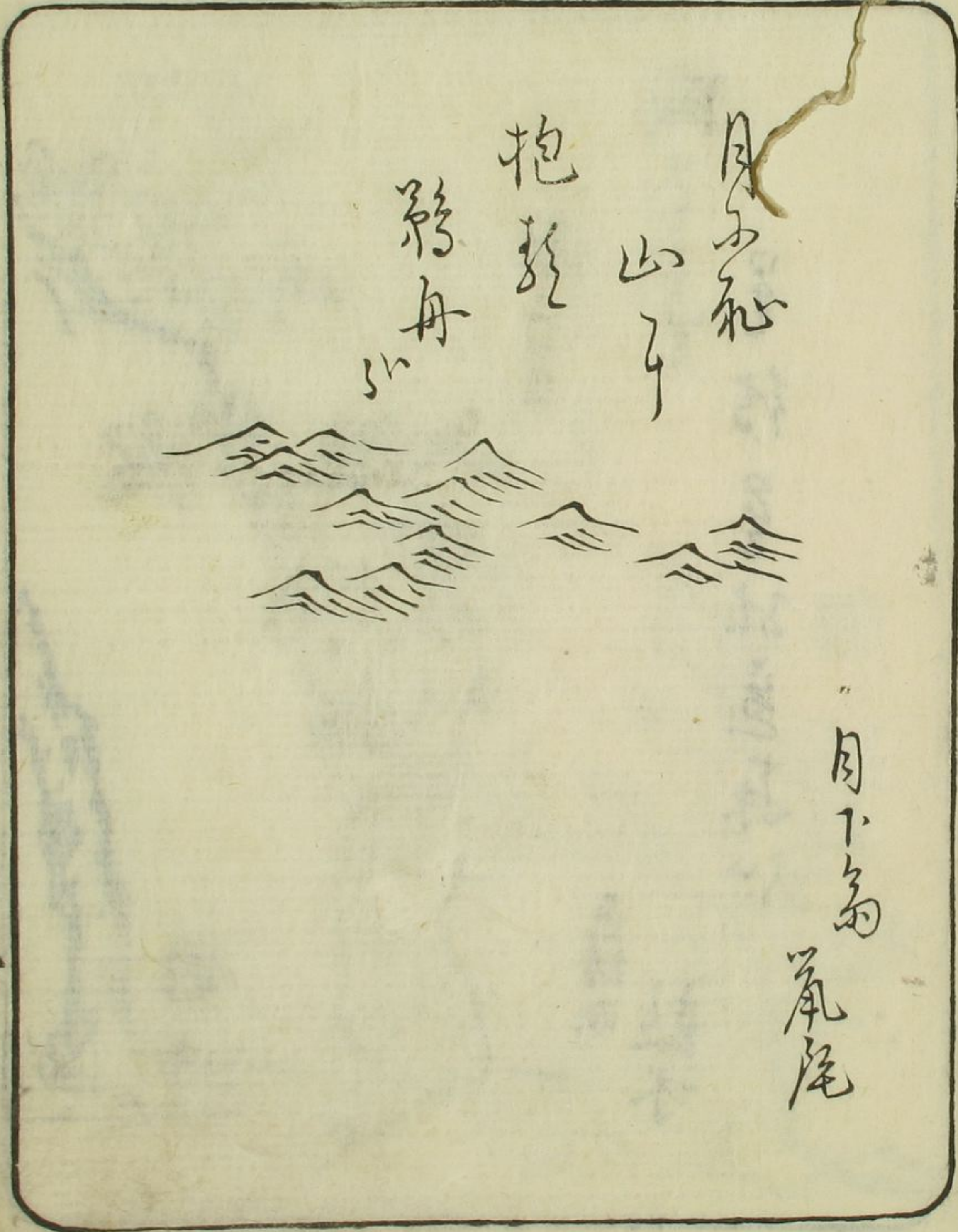


草餅の昔方折時

おとらふ

十萩

九四



月少紅

山子

抱花

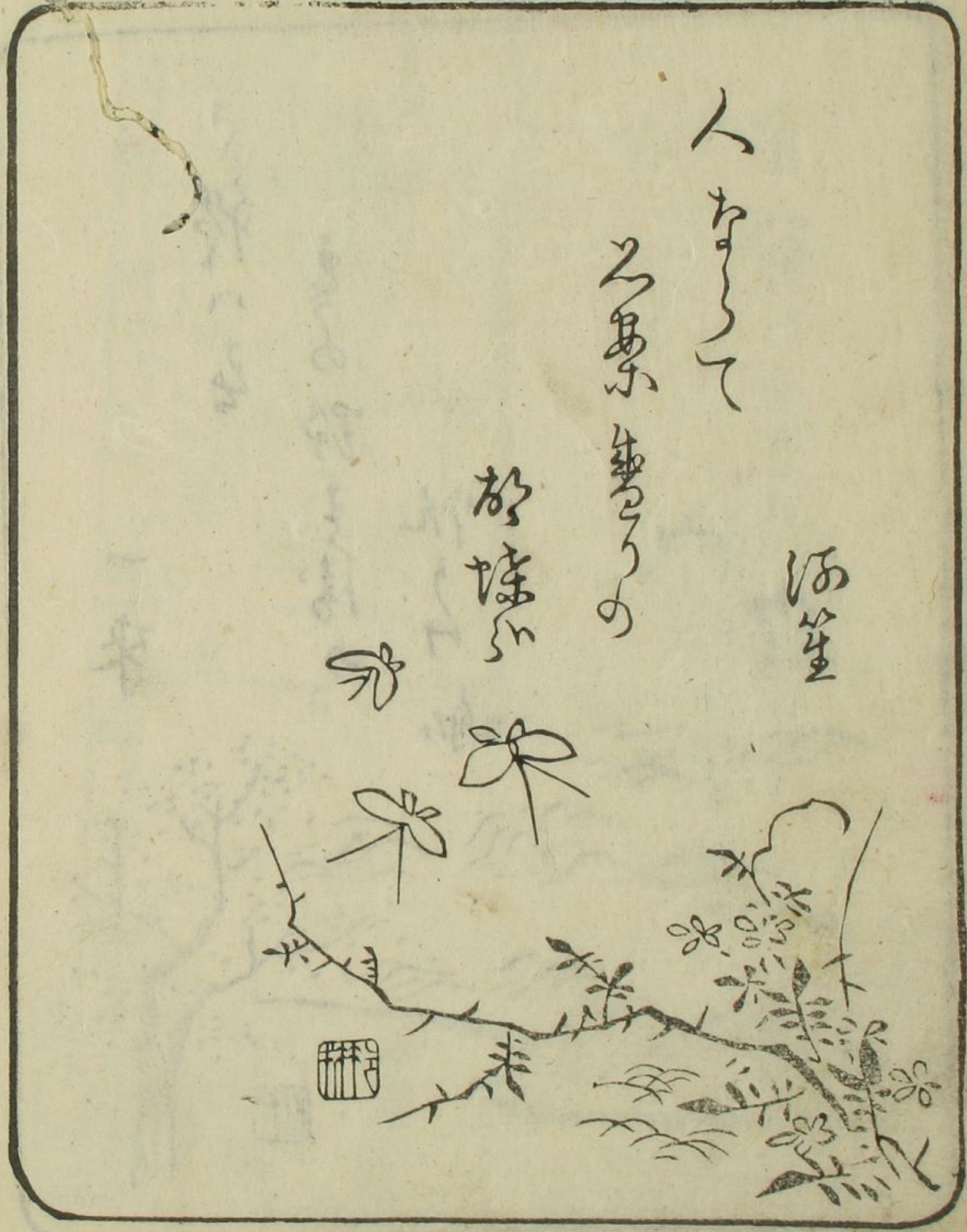
鷗舟

山

月下島

嵐尾

九四十二



人なして

乃景 華の

酒笙

花枝

花

花

花

印

九四十二



卯の花の

香ハ香

わらわら

はなはな



乳魚

卯の花

穢さそ

星待星はなはな

歌二星

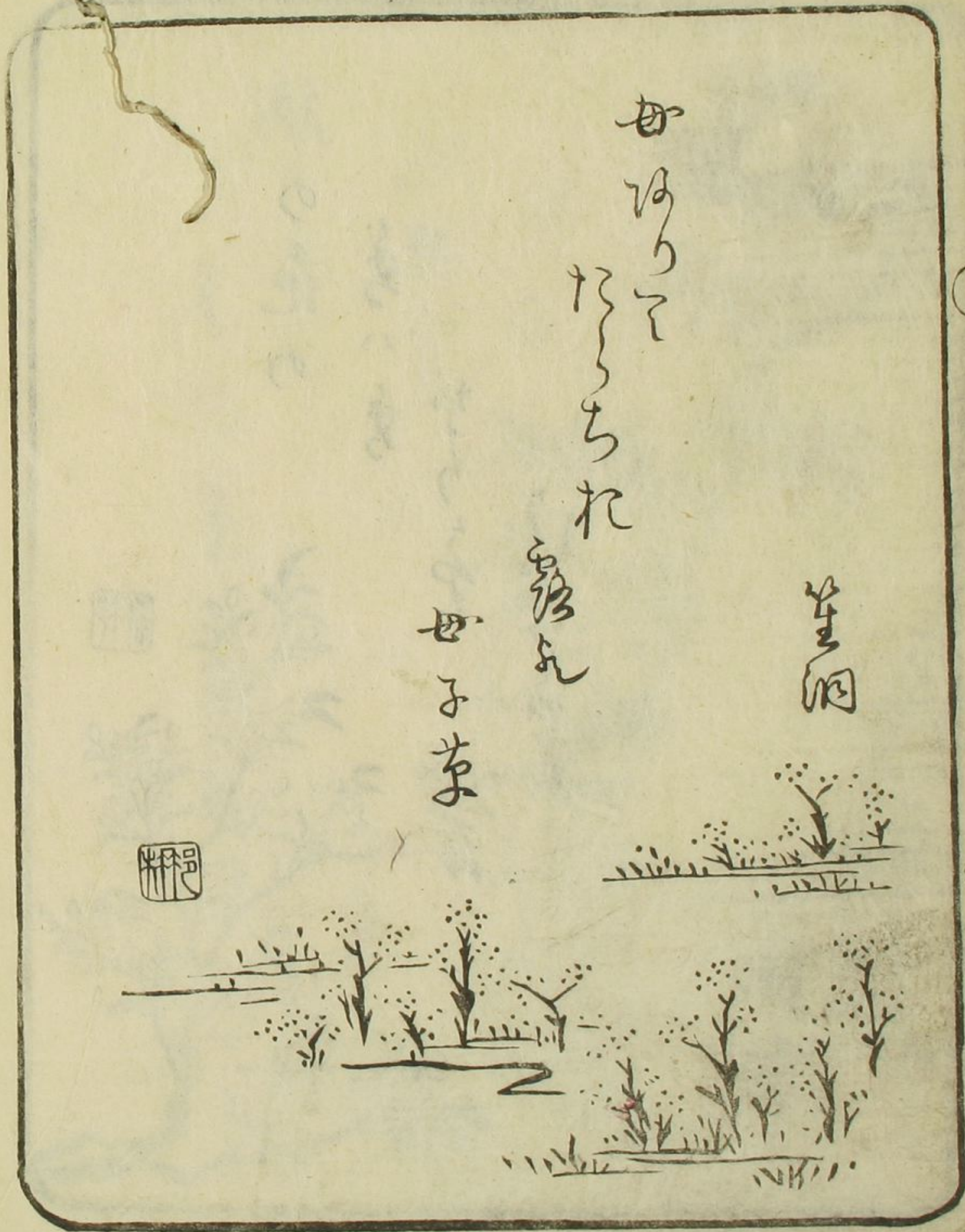


色緒改

鼓木



卯の花





肌脫之如
的少年如也
教柳

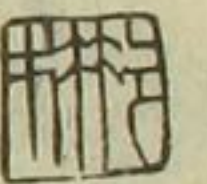
京
御鳥

〇七五八



日枝和路し

京
とつて
尾花は



枯鳥

〇七五八



捕
お
人
山

鳴
く
な
り

お
の
牧

枝
強



の
五
十



初
雪
と

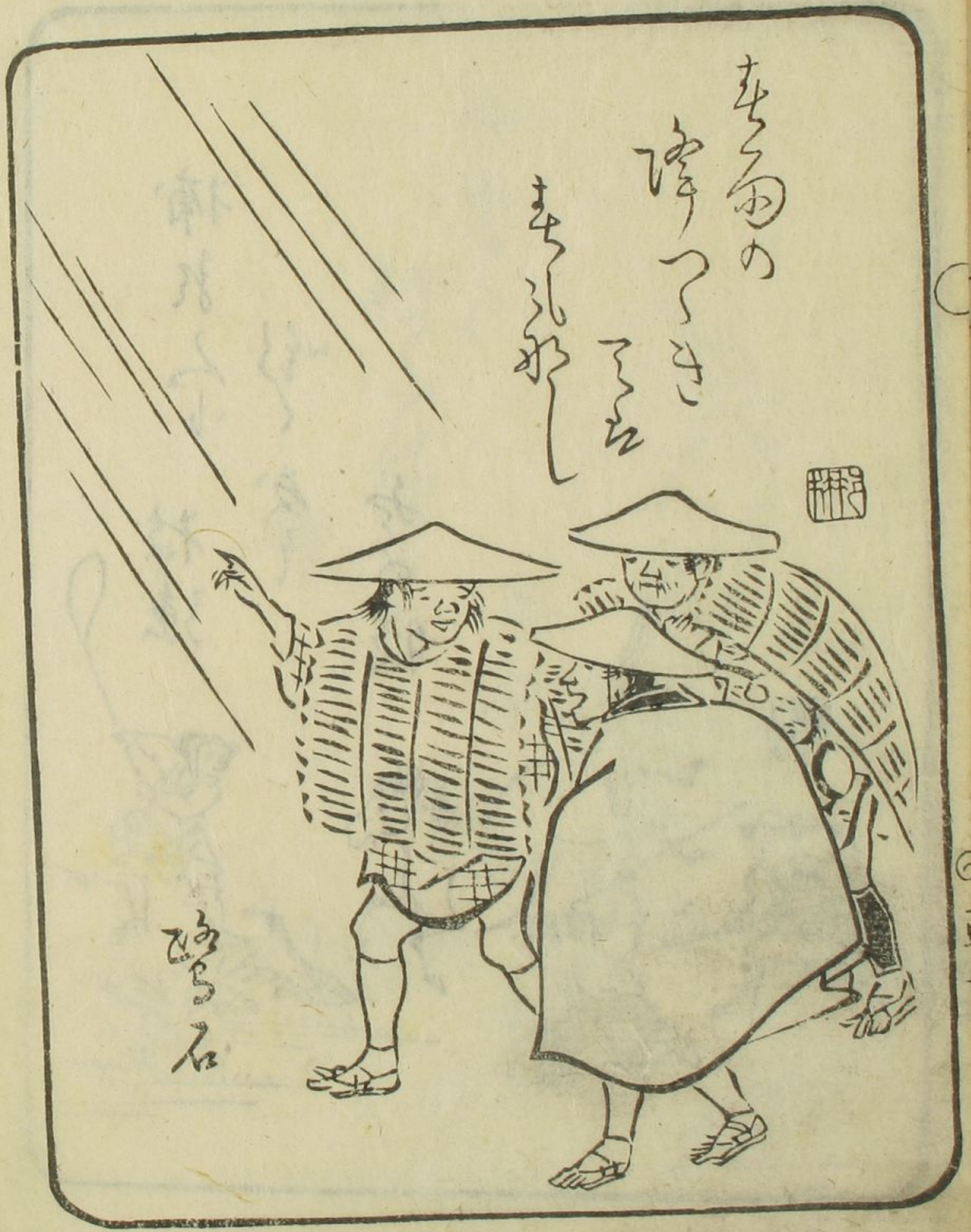
枝
山
積
る
也

鳴
る
の
名

安
健



の
五
十





雪の峰

木の梢

野鳥

板石



回
九
二
一
三



攝時

心
〜
か

雪の穴

木奴



回
五
五
十



菅原の柳

河合桂

白画

光

光

光

白画

蝶の姿

さす結

て

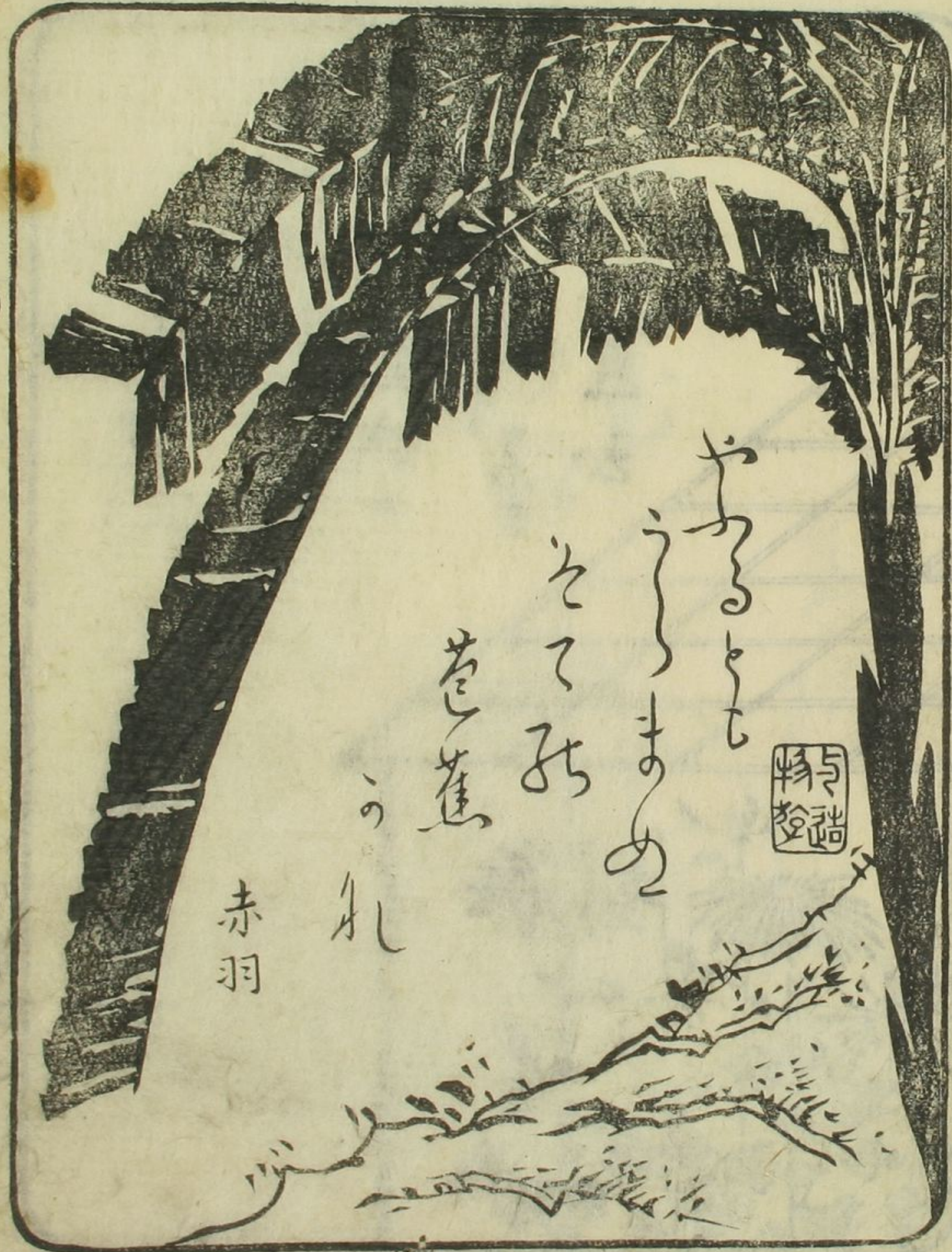
松の

羽さる



伍楽

古本



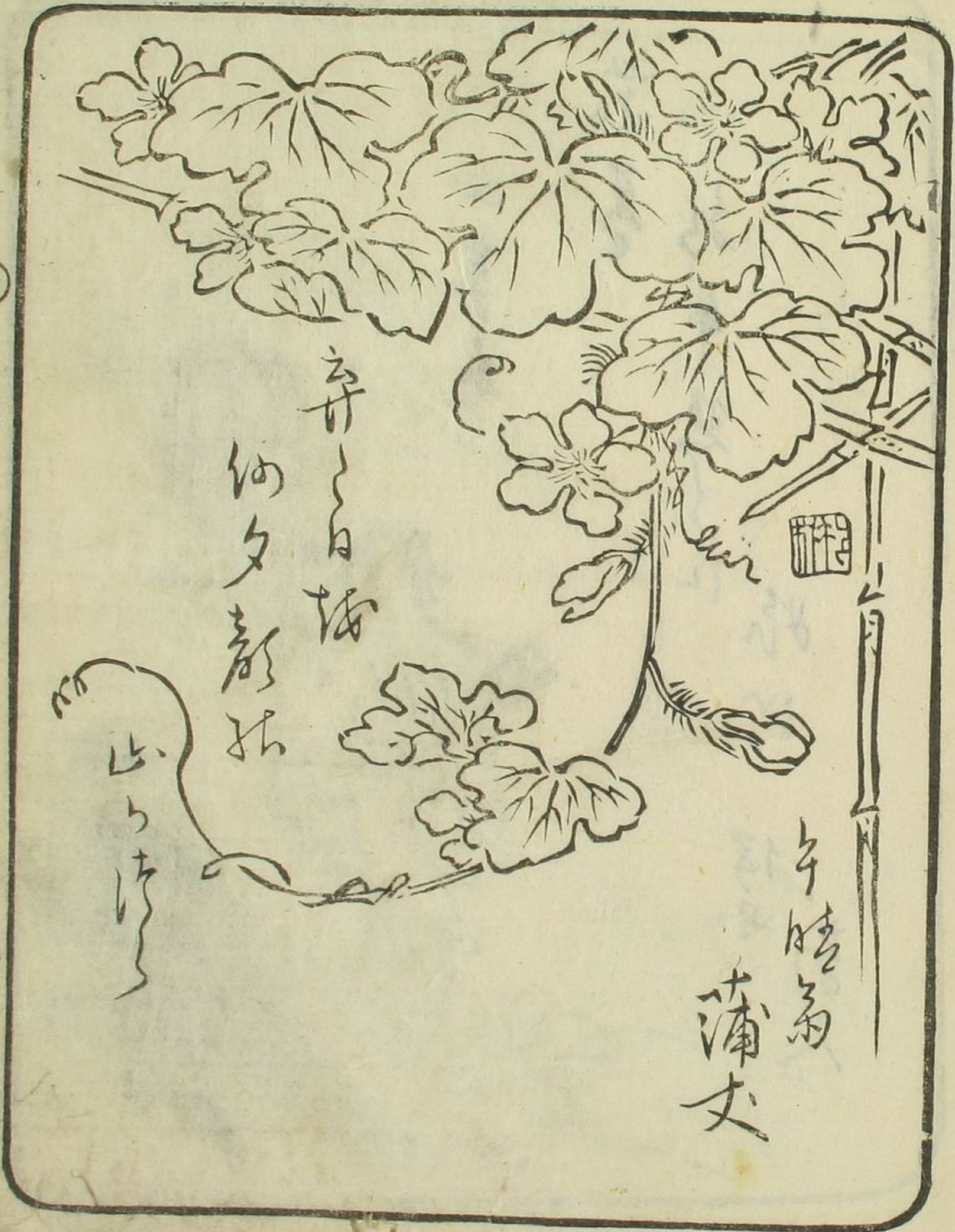


五十六



大岡江保書

五十五





泣湖水

國康を抱く
 多敷の
 比叡山

伊丹
 馬純



山家志

志甚

水牛惣了尼

娘心

伊丹
 菊久

貞二七



私事の

足定りぬ

まゝ

御山岡

真柳画

九九七



吹きさむ

志の跡を

研到員

荷海島

印

九九七

里魚小糸ア一様女姑画賛

差ハ様女姑年々々々中々新ハ琴高ハ
御小礼おとと人々女姑居世ハ鯉魚
姑游小方るよりし年一高村松象
明一城ハ園ハかゝ舟ハはさく様と象
清玉ハと一那ハ村ハ用ハ古壽の茶
と象と象と

人小糸新姑上漕

私多様也

戸樞黄

耳ハ古し

角河の磐石

里恭子

短半

井



郡山柳里茶字公美徳園より今補作性字彦才清小
 二に文不巧小書を著し画を能く夫人先主を以て四絶
 孤島生々柳し虎のま摩詰の文漸山に比ははれ先生
 自ら漁撈して其の書畫をそとむり人河川と固く辭して
 此後とて一故少生人まゆく書畫して一筆二画をある全
 と云く〜月十日去其一擲翁と〜は先生
 此詩を尋てあそり〜物語し傳り節々抄し蓬の松雪湖
 う岸の松老根斗を後う即しを先生少賛を〜は傳り
 後〜山〜是〜口〜は〜 昔の岸
 か〜身〜し〜ら〜小〜詩〜紙〜文〜系〜の〜傳〜力〜は〜さ〜ま〜る〜が
 教いおし〜と〜と〜せ〜れ〜傳〜る〜紙〜程〜あ〜く〜可〜也〜也〜半の坊
 法好なり

今又
生十

